

「補正二十四孝傳衍義詩」をめぐって

佐藤トウイウエン

Survey on “*Revision of The Twenty-four Filial Exemplars*”

SATO Thuy Uyen

Abstract

“*Revision of The Twenty-four Filial Exemplars*” (Printed book) was described by Nom script under a form of poetry called “seven-seven-six-eight” (「双七六八体」) and it was established by Mien Tuan Prince, who was in the 37th Prince of the King Minh Mang, and then became Hoa Thinh King County. It has the purpose of teaching imperial descendants in Hoa Thinh Vuong Phu filial piety as a precept for the family. Through out this document, we can see clearly the reception fusion and transformation of “*The Twenty-four Filial Exemplars*” in Vietnam and it had the influence on Confucian filial piety on Vietnam imperial class. This document is not only played an important role in education filial piety to the descendants of the imperial family, but also useful for researching linguistics, philology, the Nom script of the 19th centuries.

Key words : 補正二十四孝傳衍義詩、綿窩皇子、和盛郡王、ベトナムの字喃文献、
Bổ chính Nhị thập tứ hiếu truyện diễn nghĩa ca, Hoàng tử Miên Tuấn,
Hòa Thịnh Quận Vương, văn bản chữ Nôm Việt Nam.

はじめに

儒教を貫く重要な思想は「孝」であり、『論語』学而篇に「其為人也孝弟、而好犯上者鮮矣。不好犯上、而好犯上而好作乱者末之有也」とあるとおり、ベトナムの諸王朝も中国と同様、秩序を守る手段として儒教を用い、社会を安定させ、王権を強固にするために「徳治」、「孝道」を強調、実施した。そのため、諸王朝において経典、家規、教訓、勤孝の詩歌などの形で民衆への「孝道」教育が行われた。がんらい中国でまとめられた「二十四孝」説話は勤孝作品の一つであり、かつてベトナムにおいても「孝」を教育する教科書や家範として役割を果たしていた。

「二十四孝」説話は元の郭居敬撰と伝えられ¹⁾、その原文（漢文）が日本、朝鮮、ベトナムにも受容されたことはいうまでもない²⁾。ただし、ベトナムでは詩歌の形で自身の民族の文字である字喃によって解説される場合が多い。筆者の調査によれば、現在、ハノイ漢喃研究院、ホーチミン市総合科学図書館、ベトナム国家図書館およびベトナム社会科学通信院には「二十四孝」に関する漢喃、国語字の27文献が所蔵されている。

これら「二十四孝」に関する文献は以下のとおりであり、いずれも筆者が収集したところである。

- ①「二十四孝演歌」（『掇拾雜記』）（AB132）（写本、ハノイ漢喃研究院蔵）
- ②「二十四孝演音」（『孝順約語』）（A 433）（写本、ハノイ漢喃研究院蔵）
- ③「二十四孝演音」（『勤孝書』）（AB13）（刊本、ハノイ漢喃研究院蔵）
- ④「二十四孝演歌」（『陽節演義』）（VHv 1259）（刊本、ハノイ漢喃研究院蔵）
- ⑤「二十四孝演歌」（『驩州風土話』）（VHv 1718）（写本、ハノイ漢喃研究院蔵）
- ⑥『四十八孝詩画全集』（AC16、A3104/c）（刊本、ハノイ漢喃研究院蔵）
- ⑦「補正二十四孝傳衍義謄」（『孝経國語謄』）³⁾（VNv60）（刊本、ハノイ漢喃研究院蔵）
- ⑧『西南仁叟孝演歌』（VNv.62）（刊本、ハノイ漢喃研究院蔵）
- ⑨ *Nhị thập tứ hiếu*（『二十四孝』）（Xua nay 書房、1927年、ベトナム国家図書館蔵）
- ⑩ *Nhị thập tứ hiếu diễn âm*（『二十四孝演音』）（Ngô Tử Hạ 書房、1928年、ベトナム国家図書館蔵）

1) 「二十四孝」の作者と三系統の問題については、橋本草子「「全相二十四孝詩選」と郭居敬——二十四孝図研究ノート その一——」（『人文論叢』43、1995年）、黒田彰『孝子伝の研究』佛教大学鷹陵文化叢書5（思文閣出版、2001年）に詳しい考察がある。

2) 二十四孝説話の日本、朝鮮への伝播については、徳田進『孝子説話集の研究——二十四孝説話を中心に——』（井上書房、1963年）に詳しい考察がある。

3) Viện Nghiên cứu Hán Nôm và Học viện Viễn Đông Bắc Cổ Pháp, *Di sản Hán Nôm Việt Nam – thư mục đề yếu* 『ベトナム漢喃遺産——書目提要』（Khoa học Xã hội 出版社、1993年）には、『孝経国音演歌』（VNv60）とあるが、誤りである。

- ⑪ *Nhị thập tứ hiếu* (『二十四孝』) (Xưa nay 書房、1933年、ベトナム国家図書館蔵)
- ⑫ *Nhị thập tứ hiếu* (『二十四孝』) (Đông Tây 書房、1933年、ベトナム国家図書館蔵)
- ⑬ *Nhị thập tứ hiếu* (『二十四孝』) (Đức Lưu Phương 書房、1933年、ベトナム国家図書館蔵)
- ⑭ *Vọng cổ Bạc Liêu*⁴⁾ “*Nhị thập tứ hiếu*” 『二十四孝』——懷古形式の歌 (Chợ Lớn、Phạm Đình Khương 書房、1935年、ベトナム国家図書館蔵)
- ⑮ *Nhị thập tứ hiếu* (『二十四孝』) (Phúc Chi 書房、出版年不明、ベトナム国家図書館蔵)
- ⑯ *Nhị thập tứ hiếu* (『二十四孝』) (Hương Quê 出版社、1957年、ベトナム国家図書館蔵)
- ⑰ *Nhị thập tứ hiếu: Hai mươi bốn tấm gương hiếu thảo* (『二十四孝、二十四の孝行の鑑』) (Hồ Chí Minh 市 Trẻ 出版社、1994年、ベトナム国家図書館蔵)
- ⑱ *Nhị thập tứ hiếu* (『二十四孝』) (Hồ Chí Minh 市 Văn Nghệ 出版社、1996年、ベトナム国家図書館、ホーチミン市総合科学図書館、ベトナム社会科学通信院蔵)
- ⑲ *Nhị thập tứ hiếu* (『二十四孝』) (Thế giới 出版社、1998年、ベトナム国家図書館蔵)
- ⑳ *Nhị thập tứ hiếu* (『二十四孝』) (Đồng Nai 出版社、1999年、ベトナム国家図書館蔵)
- ㉑ *Tây Nam nhị thập bát hiếu diễn ca* (『西南二十八孝演歌』) (Ủy ban dịch thuật Phủ Quốc vụ khanh đặc trách văn hóa 出版、1971年、ベトナム国家図書館蔵)
- ㉒ *Nhị thập tứ hiếu* (『二十四孝』) (Nam Định 書房、1908年、ベトナム社会科学通信院蔵)
- ㉓ *Nhị thập tứ hiếu thi ca* (『二十四孝詩歌』) (Thụy Ký 書館、1911年、ベトナム社会科学通信院蔵)
- ㉔ *Nhị Thập Tứ Hiếu* (『二十四孝』) (Ngày mai 出版社、出版年不明、ベトナム社会科学通信院蔵)
- ㉕ *Nhị Thập Tứ Hiếu* (『二十四孝』) (Bình dân thư quán 出版、1950年、ベトナム社会科学通信院蔵)
- ㉖ *Nhị thập tứ hiếu toàn tập* (『二十四孝全集』) (Mỹ Thuật 出版社、2010年、ホーチミン市総合科学図書館蔵)
- ㉗ *Hai mươi gương hiếu Việt Nam* (『ベトナム二十の孝行の鑑』) (ホーチミン市 Trẻ 出版社、1994年、ベトナム国家図書館、ホーチミン市総合科学図書館蔵)

このうち、15文献 (①、②、③、④、⑤、⑩、⑫、⑮、⑰、⑱、⑲、⑳、㉒、㉓、㉔、㉕) は李文馥 (リー・ヴァン・フク、Lý Văn Phức) が字喃の「双七六八体」⁵⁾ によって解説した「二十

4) *Vọng cổ* (漢語「望古」) 或いは *vọng cổ Bạc Liêu* はベトナム南部の古楽の一形式である。さらに、南部を中心に流行している歌舞であるカイルオン (漢語「改良」) の基本的な音楽にもなっている。

5) 五言・七言という中国における詩歌形式に基づき六言、八言を交替させる「六八体」、および七言、七言、六言、八言を交替させる「双七六八体」はベトナム語の独自の短詩形慣用表現である。「六八体」は2行以上の6音、8音が交替し、「双七六八体」は4行以上の7音、7音、6音、8音が交替する。いずれも押韻、平仄などの規則をもつ詩歌である。この二つの詩歌形式は漢詩や中国の文献を焼きなおした作品或いは歌謡、民謡など民間文学の作品によく使用されている。

「四孝演歌」の原作を載せるとともに、それをベトナム国語字に翻訳したものである⁶⁾。そして、ここにとり上げる⑦「補正二十四孝傳衍義詞」は阮朝の綿窩皇子（ミエン・トウアン皇子、Hoàng tử Miên Tuán）の作品である。これら多くの文献の存在は「二十四孝」がベトナムの社会、民間界から貴族界までベトナム人の生活の中に流布し、影響を深く与えている証拠と言えよう。

これらの文献を見ると、中国の郭居敬の「二十四孝」説話から李文馥の「二十四孝演歌」、阮朝の綿窩皇子の「補正二十四孝傳衍義詞」へという展開の様相が知られる。李文馥の「二十四孝演歌」が民間に幅広く流布したことはいうまでもないが、綿窩皇子の「補正二十四孝傳衍義詞」は巻末に「和盛郡王府子女并孫曾孫同學本」とあるため、李文馥の「二十四孝演歌」ほど民間に広く普及しなかったかもしれないが、皇室内で子孫たちへの教訓書として広く読まれたようである。

近年、ベトナムの国王、皇室のメンバーの作品に関する研究がなされるようになったが⁸⁾、詩集の紹介、作品の注解、評論などにとどまっている⁷⁾。たとえば、「翠雲寺に保存される明命帝御製の碑文」⁸⁾、「成泰帝の『庚子詩集』」⁹⁾、「啓定帝の御筆における貴重ないくつかの情報」¹⁰⁾、「『蒼山詩話』の文献の価値をめぐって」¹¹⁾などである。しかし従来、綿窩皇子の「補正二十四孝傳衍義詞」についての研究はほとんどない。そこで本稿では「補正二十四孝傳衍義詞」（ハノイ漢喃研究院蔵）を中心に考察し、「二十四孝」説話がベトナムにどのように受容され、またどのような変遷を遂げたのか、その特徴の一端を明らかにしたい。

一 「補正二十四孝傳衍義詞」と綿窩皇子

1 綿窩皇子の履歴

綿窩皇子の経歴について書かれた史料はあまり多くない。筆者の調査によれば、綿窩皇子の経歴について書かれた文献は現在5点ある。

6) 佐藤トウイウエン「ベトナムにおける「二十四孝」と字喃文献」『東アジア文化交渉研究』東アジア文化研究科開設記念号、(関西大学大学院東アジア文化研究科、2012年3月)を参照。

7) Nguyễn Thị Kiều Minh, *Việc diễn Nôm Hiếu kinh thế kỷ 19: Một số vấn đề văn bản học và nội dung học thuật* (19世紀『孝経』を字喃で翻案すること——学術と文献学のいくつかの問題点——、ハノイ人文・社会・科学大学修士論文、2007年)、8頁。

8) Trần Thị Thanh, *Bài văn bia do vua Minh Mệnh ngự chế hiện lưu giữ tại chùa Thủy Vân*『漢喃雑誌』2号(47)、(漢喃研究院、2001年)、70~74頁を参照。

9) Phan Thuận An, *Canh Tý thi tập của vua Thành Thái*,『漢喃雑誌』1号(18)(漢喃研究院、1994年)、51~56頁を参照。

10) Nguyễn Đắc Xuân, Ngô Văn Lai, *Những thông tin quý trong mấy chục trang ngự bút của vua Khải Định* (『フエ漢喃遺産』、フエ古都遺跡保存センター、2003年)、119~123頁を参照。

11) Nguyễn Thanh Tùng, *Vài nét về văn bản và giá trị của Thương Sơn thi thoại* [『蒼山詩話』の文献の価値をめぐって]、『漢喃雑誌』3号(83)(漢喃研究院、2007年)、33~40頁を参照。

『漢喃書目——作者目録』には、

阮綿窩、字陽賢、阮明命の子である。著作としては『雅堂詩集』（VHb7）があり、注釈作品としては『孝経立本』（AB266）があり、注釈と字喃に翻案する作品としては「孝経國音衍義譚」（VHv60）がある¹²⁾。

と簡潔に述べられている。

次に、『ベトナム漢喃の作者の字、号』には、

阮綿窩、字彦叔、号仲延、雅莊および松園、阮明命の子である。著作としては『孝経立本』、『孝経國音演歌』、『雅堂詩集』がある¹³⁾。

とある。

また、『大南寔録』正編第三紀、第五紀、第六紀には、

癸卯紹治三年（1843、清道光二十三年）、封皇弟綿宁為從化郡公、綿宋為河清郡公、綿宮為山定郡公、綿寮為葵州郡公、綿家為廣邊郡公、綿窩為和盛郡公¹⁴⁾。乙巳紹治五年（1845、清道光二十五年）、準定其命名皇子皇孫著指遵前例永遠辦理、其賜名皇弟之子上一字、著遵帝系詩章、以表天源之毓慶、下一字則分房賜部以辨親藩之嗣胤。其諸房則照本字部仍分世次、以此而推也。和盛郡公綿窩之房賜女字部¹⁵⁾。乙酉年咸宜元年（1885、清光緒十一年）、晉封輔政親臣懷德郡公綿霖為樂國公、和盛郡公綿窩為盛國公¹⁶⁾。戊子同慶三年（1888、清光緒十四年）、遵國公綿宁、和盛郡公綿窩、以口過奪爵、辰尊人廷臣片請、晉封堅王妃二公、於朝日取片展閱相與私議、綿宁曰、古來未有府妾封為王妃者、綿窩曰、此款漢宋之禁典也。……交頭私語似此違妄、寔屬有虧行檢、其綿宁綿窩請炤行止有虧、例各革去爵號、勒回閒散、以懲違妄而肅朝綱¹⁷⁾。

とあり、綿窩皇子の封爵、降格などについて記されているが、情報は多くない。

さらに、『大南寔録』正編第六紀附編¹⁸⁾には、

12) Ban Hán Nôm thư viện khoa học xã hội, *Thư mục Hán Nôm-mục lục tác giả*『漢喃書目——作者目録』（Ủy ban khoa học xã hội Việt Nam 出版、1977年）、234頁。

13) Trịnh Khắc Mạnh, *Tên tự tên hiệu các tác gia Hán Nôm Việt Nam*『ベトナム漢喃の作者の字、号』（Khoa học xã hội 出版社、2002年）、307頁。

14) 阮朝国史館『大南寔録』正編第三紀卷二十七「大南寔録十三」（慶応義塾大学言語文化研究所、1972年）、370、377頁。

15) 阮朝国史館『大南寔録』正編第三紀卷四十九「大南寔録十四」（慶応義塾大学言語文化研究所、1972年）、180、181頁。

16) 阮朝国史館『大南寔録』正編第五紀卷七「大南寔録十九」（慶応義塾大学言語文化研究所、1972年）、95、97頁。

17) 阮朝国史館『大南寔録』正編第六紀卷九「大南寔録十九」（慶応義塾大学言語文化研究所、1972年）、304、306頁。

18) *Đại Nam thực lục chính biên đệ lục kỳ phụ biên*（『大南寔録』正編第六紀附編）の序文によると、「『大南寔録』正編第六紀附編の漢文版はパリのL'Ecole Francaise d'Extrême Orient-EFEOに所蔵されている唯一の写本（Viet/A/Hist/9）である」とある。それで、ベトナムでは国語字（現代のベトナム語）に Cao Tư

成泰11年(1899)、和盛公綿寓は「和盛郡王」に拔擢された。成泰19年(1907)、和盛郡王綿寓が亡くなった。郡王は皇室にとって極めて親しい人であり、六朝の遺老であり、読書、学問を好み、清潔で気品がある心をもち、本年、81歳で病気で死去した。帝は彼に「和盛王」を追封し、埋葬に300ドンを提供した¹⁹⁾。

とあり、綿寓皇子の没する数年前の情報が記されている。

一方、*Nguyễn Phúc Tộc Thế phả-Thủy tổ phả-Vương phả Đế phả* (『阮福族世譜 始祖譜 王譜 帝譜』、1995年)(以下、『阮福族世譜』と略称)には、下記の通り彼について詳細に記載されている。原文はベトナム語で書かれているが、日本語訳して引用する。

NGUYỄN PHÚC MIÊN TUẤN (阮福綿寓) Hòa Thành Vương (和盛王) : 彼は字を陽賢 (Dương Hiền)、彦芝 (Ngạn Chi)、彦叔 (Ngạn Thúc)、仲延 (Trọng Diên)、号を松園 (Tùng Viên)、称を雅堂主人 (Nhã Đường Chủ Nhân)、樂善老人 (Lạc Thiện Lão Nhân) という。彼は聖祖皇帝(筆者注: 明命帝)、母安嬪胡氏随 (An Tàn Hồ Thị Tuy) の37番目の子であった。彼は丁亥5月18日(1827年6月12日)に雲錦院²⁰⁾ (Vân Cẩm Viện) の裏の邸宅で生まれた。辛卯(1831年)に勅旨を奉じて廣福堂 (Quảng Phúc Đường)²¹⁾ に派遣され、兄弟と共に勉学した。癸卯(1843年)旧暦1月に、彼は王宮 (Đại nội) の覺皇寺 (chùa Giác hoàng) の裏に邸宅の設立の許可を受け、「和盛郡公」に拔擢された。己巳(1869年)、彼は萬春村に喜吾巢 (Hi Ngã Sào)²²⁾ という別荘を建てた。簡宗毅皇帝の時代のもと、甲申(1883年)²³⁾、彼は「盛国公」を授けられた。乙酉(1885年)、都に兵乱があったため、彼と家族はリュ・ビュウ (Lư Biều)²⁴⁾ へ逃げた。府楼は全て略奪され、家財も消失したが、幸いに主な府邸は残った。丙戌(1886年)、彼は60歳になり、東池邑の庭園に移った。丁亥(1887年)に彼は同慶帝の母親に王妃という爵号を差し上げることについて交渉したため、官位を剥奪された。己丑(1889年)に、彼は前の爵位に復職した。癸巳(1893年)、彼は宗人府左宗人の兼職に任命された。三宮の命令に従い浄心湖で精神病にかかっている帝に仕えた。彼は六部の大臣を指示しつつ、交替で帝に仕えた。乙未(1895年)4月、彼は「和盛公」という爵

Thanh氏が訳された *Đại Nam thực lục chính biên đệ lục kỷ phụ biên* のみがある。

19) Cao Tự Thanh 訳、*Đại Nam thực lục chính biên đệ lục kỷ phụ biên* (『大南寔録』正編第六紀附編)

(Văn hóa văn nghệ 出版社、2011年)、巻十一-322頁、巻十九480頁。

20) 漢字名は推測である。筆者は阮朝国史館『大南寔録』正編、『皇朝一統地輿誌』R.1684・NLVNPF-0601(ベトナム国家図書館の電子文)を調べたが、その漢字名は載っていない。広島大学の八尾隆生教授からも『大南一統志』や『同慶御覽地輿誌』にも載っていない。やはり本人が正史『大南列傳』に列伝されていないため、情報が足りない」と教示していただいた。『大南列傳』に列伝されていないのは同書が完成した時、綿寓皇子はまだ在世していたからである。

21) 前掲注20に同じ。

22) 前掲注20に同じ。

23) 原文には甲申(1883年)と記されているが、正しくは1884年の誤りである。

24) この地名の漢字名は推測できないため、カタカナで表示する。前掲注20を参照。

号に抜擢された。翌年旧暦12月、彼は高齢のため、職を退いた。丁未5月12日（1907年6月22日）、彼は81歳で死去した。諡號は端恭²⁵⁾ (Đoan cung) であり、承天省 (tỉnh Thừa Thiên) 香水県 (huyện Hương Thủy) 楊春下社 (xã Dương Xuân Hạ) に埋葬され、フエの富美邑 (Phú Mỹ, Huế) に祭られた。死去後、彼は「和盛郡王」、「和盛王」を追封された。彼の作品は『雅堂詩集』(10巻)、『雅堂文集』、『孝経立本』、『國音孝史』などがある。彼は34人の男児と27人の女兒をもうけた。彼と子孫は第二正系の37番目の房に属し、「女」字部を賜った²⁶⁾。

とある。

なお、彼が「盛国公」を授けられた時期については、『大南寔録』正編第五紀には乙酉（1885年）と述べているが、『阮福族世譜』には甲申（1884年）とある。そして、彼が「和盛郡王」という爵号を与えられたことについては *Đại Nam thực lục chính biên đệ lục kỷ phụ biên* (『大南寔録』正編第六紀附編) には成泰11年（1899）と記されているが『阮福族世譜』には丁未（1907年）とあり、文献によって差異がみられる。

2 「補正二十四孝傳衍義譚」誕生の背景

18世紀のベトナムにおける儒教は政治、道徳の面で、衰退の傾向が見られたが、19世紀、特に阮朝（1802-1945）の時代には、為政者も儒家も儒教を強固するように力を尽くした。そのため、儒教が様々な分野でそれまで以上に発展を遂げたとされる。ファン・ダイ・ゾアン (Phan Đại Doãn) 氏は19世紀におけるベトナムの儒教について、

19世紀に入ると、以前より儒学、儒教が非常に高く掲げられた。明命帝（1820-1840）は儒学、儒教、儒家は国の社会、思想の頼りであると認識した。そして、明命帝は1834年に儒教の観念に基づく「忠孝」、「礼儀」を提唱した『聖諭訓迪十條』を村、部落にまで公布し、その後、嗣徳帝（1848-1883）は民衆が聞き取りやすく、覚えやすいように同書を「六八体」の詩で字喃に変換し、『聖諭訓迪十條演義歌』という新しい題名とした。阮朝は学説、思想の面では「三教同元」を認めず、信仰の面では仏教、道教を制限させ、唯我独尊の儒教を主張した。更に、18世紀から19世紀にかけて漢文の経典、作品を字喃に翻案する傾向を高めたことは、ベトナムの儒家の「儒教の経典を地方化する」という意志を表現し、重要な成果である「ベトナム風の儒学」を誕生させたことに貢献した²⁷⁾。

と述べている。

25) 漢字名は推測である。前掲注20を参照。

26) Hội đồng trị sự Nguyễn Phúc Tộc, *Nguyễn Phúc Tộc thế phả-thủy tổ phả-vương phả đế phả* (『阮福族世譜——始祖譜—王譜帝譜』、Thuận Hóa-Huế 出版社、1995年)、304頁。

27) Phan Đại Doãn, *Một số vấn đề nho giáo Việt Nam* 『ベトナム儒教のいくつかの問題点』(Chính trị quốc gia Hà Nội 出版社、1998年)、56頁、72頁。

阮朝の明命帝、紹治帝、嗣徳帝は儒教に深く傾倒し、社会を安定させつつ王位を強固にするため、「徳治」、「孝道」を強調実施した。このように儒教を重視した王朝のもとで育てられたからこそ、皇子だけではなく、皇女も詩賦の才能をもち、熱心に創作したため、価値ある著作を残すことになった²⁸⁾。例としては綿寓皇子の『孝経立本』、「孝史略詮」、「孝史国国歌」、『孝経国語詞』、綿審皇子の『蒼山詩集』、『蒼山外集』、綿寅皇子の『綏國公詩集』、『葦野合集』、永禎皇女の『續彙大南文怨統編』、貞愼皇女の「妙蓮集」などである²⁹⁾。

これらの兄弟の中で綿寓皇子は「孝」思想に関する作品や孝史、經典を字喃に翻字することに熱心にとりくんだ人物である。彼は社会道徳が次第に減耗してきたことを憂い、勸孝の作品を注解しつつ民間に普及させ、さらには、「孝道」の意識を高めることに尽力した。彼の意図は「孝経国音衍義詞」の自序に次のようにあることからわかる。

易坤爻恩委義坦。論孝本諸遂志。事親兜佞停慙。… 坤量天道、樓閣湖麻儘空停。乾嘯、人情肢雖輪麻運易擲。盼返軸茄瓊挫放當學習經尼。蓮席伴賢曾固悔軒義意。丕鍼仙朔悶多慙翠脛、娘式書牘飄飄。啞身瑄拱惜分陰、蹇册智添蹟絡。… 群諸通率^レ詩書。拯料性慣、滿慙栖攀。悖勾紹庫蹻分鮮、寔襟情扒酌朱瓊。義理油鞣塊少乘、敢噴願學隊孔子。達對吡茄稚勦、吉據排執整喃那。」(日本語訳：天の恩、地の義に報いることが容易にできず、孝の基本を論ずることも思い通りにならず、親を奉持することもまだ満足にできない。天道をよく推察できず、木は静まろうとするが風が止まらない。さらに、人情がじゃまになり、月丸いのに雲に覆い隠されやすい。家では子供たちがこの經典を勉強している最中で、宴会では友達にその意を聞かれた。皆を満足させるため、古式に従って瓢筆を書き、古文に蛇足を書き足す。私は『詩経』、『書経』にまだ精通せず、凡才で下手であるが、経の字、句を分解することに努力し、子孫に対して模範になるように切望する。義理に過不足があっても孔子に従って勉強することを求めたい。それをういて子孫を教育するため、字喃に翻案することにした)。

これは綿寓皇子によって「補正二十四孝傳衍義詞」を含む、いくつかの「勸孝」に関する作品が誕生した動機でもあった。

3 「補正二十四孝傳衍義詞」の形態

「補正二十四孝傳衍義詞」は「二十四孝」説話を漢文によって引用したあと、その意味を字喃

28) Nguyễn Thị Kiều Minh, *Việc diễn Nôm Hiếu kinh thế kỷ 19: Một số vấn đề văn bản học và nội dung học thuật* 『19世紀『孝経』を字喃で翻案すること——学術と文献学のいくつかの問題点——』(ハノイ人文・社会・科学大学修士論文、2007年)、6頁。

29) Ban Hán Nôm thư viện khoa học xã hội, *Thư mục Hán Nôm-mục lục tác giả* 『漢喃書目——作者目錄』(Ủy ban khoa học xã hội Việt Nam 出版、1977年)、Viện Nghiên cứu Hán Nôm và Học viện Viễn Đông Bác Cổ Pháp, *Di sản Hán Nôm Việt Nam-thư mục đề yếu* 『ベトナム漢喃遺産——書目提要』(Khoa học Xã hội 出版社、1993年)を参照。

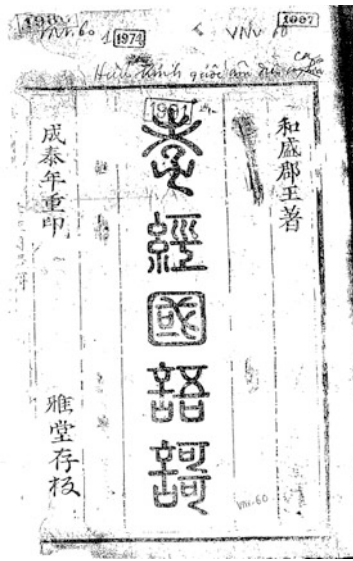


図1 『孝経國語譚』の表紙

の「双七六八体」の詩体で説明した作品である。「孝経國音衍義譚」、「活世生幾孝子光傳」、「補正二十四孝傳衍義譚」の三種の文献がともに『孝経國語譚』（VNV60）の名で合冊され、現在、ハノイ漢喃研究院に所蔵される。『孝経國語譚』の表紙には「和盛郡王著」、「成泰年重印」、「雅堂存板」とある（図1参照）。ここから、『孝経國語譚』は綿寓皇子によって著され、成泰年（1889-1907）に雅堂で重版されたことになる。40頁の字喃文の刊本で、高さ23センチ、幅16センチ。

次に、同書に合冊される「孝経國音衍義譚」の序の末尾には「嗣徳年間」、冒頭には「皇子綿寓著」とある。ここから、「孝経國音衍義譚」は綿寓皇子により嗣徳年（1848-1883）に書かれたことがわかる。

さらに、「活世生幾孝子光傳」の冒頭には「大南和盛郡王仲延衍義譚」、「親子洪敬恭檢寫」、「成泰庚子」、「王府増印」とある。

上述したように、*Đại Nam thực lục chính biên đệ lục kỷ phụ biên*（『大南寔録』正編第六紀附編）に基づくならば、綿寓皇子は1899年に「和盛郡王」を贈らされた。ところで、明命帝は1823年に『帝系金冊』を作っている。『帝系金冊』とは明命帝の後の第2世以降、この順番で男子の子孫のミドルネーム（輩行字）として使用される20の漢字を列挙したものである。この20字は綿（Miên）、洪（Hồng）、膺（Ung）、寶（Bửu）、永（Vĩnh）、保（Bảo）、貴（Quý）、定（Định）、隆（Long）、長（Trường）、賢（Hiền）、能（Năng）、堪（Kham）、繼（Kế）、述（Thuật）、世（Thế）、瑞（Thụy）、國（Quốc）、嘉（Gia）、昌（Xương）である。

そのことは『大南寔録』正編に、

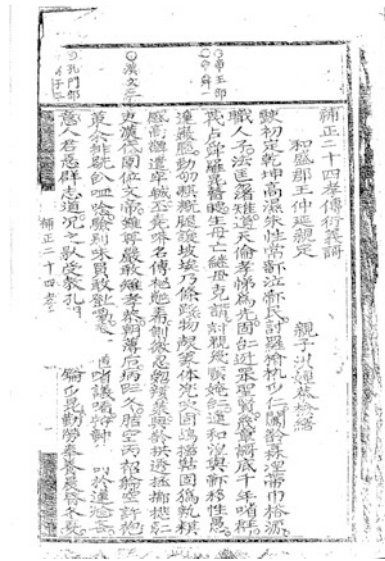


図2 「補正二十四孝傳衍義詞」の巻首

御製 帝系金冊及藩系銀冊成先是正月元旦。帝親定日字部二十。帝系親藩系美字各二十〔帝系曰綿ニ部、洪イ部、膺ネ部、寶ハ部、永玉部、保阜部、貴イ部、定言部、隆才部、長禾部、賢貝部、能力部、堪才部、繼言部、述心部、世玉部、瑞石部、國大部、嘉禾部、昌小部。〕³⁰⁾

とある。したがって「活世生幾孝子光傳」を検写した「洪熲」が綿窩皇子の子であることは明らかである。

このように、綿窩皇子の履歴や『帝系金冊』とあわせ考えると、「活世生幾孝子光傳」は綿窩皇子によって著され、子の洪熲に訂正されたあと、成泰庚子年すなわち1900年に、増印されたものと推測できる。そうであれば、「活世生幾孝子光傳」の初版は1899年内に刊行されたと考えられる。

「補正二十四孝傳衍義詞」の編纂の年代は明記されていないが、巻首に「和盛郡王仲延親定」、「親子洪熲恭檢繕」とある（図2参照）。既述した「活世生幾孝子光傳」と同様に、「補正二十四孝傳衍義詞」は1899年以降、和盛郡王となった綿窩皇子が定め、子の洪熲が訂正、公開したものと推測される。

以上の情報をまとめると、この『孝経國語詞』に合冊される「孝経國音衍義詞」、「活世生幾孝子光傳」、「補正二十四孝傳衍義詞」は成立年代がそれぞれ異なるが、おそらく成泰庚子年（1900年）にまとめて重印され、冒頭に『孝経國語詞』の名が冠せられたものと推測される。

30) 阮朝国史館『大南寔録』正編第二紀卷二十「大南寔録五」（慶応義塾大学言語文化研究所、1972年）、270頁。〔 〕内は双行注。

4 「補正二十四孝傳衍義譚」と「二十四孝」説話の三系統

さて、これまでの研究によれば、二十四孝説話集には大きく三つの系統がある。『全相二十四孝詩選』系、『日記故事』系、『孝行録』系である。『全相二十四孝詩選』系は「龍大本甲本、乙本」、「洪武版」、「身延本」、「五言詩注本」などである。『日記故事』系は「万曆三十九年版」、「寛文九年版」、「二十四孝原編」、「趙子固二十四孝書画合璧」などである。『孝行録』は「南葵本、権近注解本」、「平松家本」、「石崎本」、「七言詩注本」などである³¹⁾。三系統の記載法、24人の孝子の順序が比較できるよう整理すると次のようになる（図3参照）。

『全相二十四孝詩選』系 （龍谷大学図書館蔵本 『新刊全相二十四孝詩選』）	『日記故事』系 （『新鍬類解官様日記故事大全』）	『孝行録』系 （南葵文庫本『孝行録』）
1) 大舜	1) 孝感動天（大舜） ³²⁾	1) 大舜象耕（大舜）
2) 漢文帝	2) 親嘗湯藥（漢文帝）	2) 老萊兒戲（老萊子）
3) 丁蘭	3) 嚙指痛心（曾參）	3) 郭巨埋子（郭巨）
4) 孟宗	4) 單衣順母（閔損）	4) 董氏賃身（董永）
5) 閔損	5) 為親負米（仲由）	5) 閔子忍寒（閔損）
6) 曾參	6) 買身葬父（董永）	6) 曾氏覺痛（曾參）
7) 王祥	7) 鹿乳奉親（剡子）	7) 孟宗冬筍（孟宗）
8) 老萊子	8) 行傭供母（江革）	8) 劉殷天芹（劉殷）
9) 姜詩	9) 懷橘遺親（陸績）	9) 王祥水魚（王祥）
10) 黄山谷	10) 乳姑不怠（唐夫人）	10) 姜詩泉鯉（姜詩）
11) 唐夫人	11) 恣蚊飽血（吳猛）	11) 蔡順兮樵（蔡順）
12) 楊香	12) 臥水求鯉（王祥）	12) 陸績懷橘（陸績）
13) 董永	13) 為母埋兒（郭巨）	13) 義婦割股（王武子）
14) 黃香	14) 搯虎救親（楊香）	14) 孝娥抱死（曹娥）
15) 王裒	15) 棄官尋母（朱寿昌）	15) 丁蘭刻母（丁蘭）
16) 郭巨	16) 嘗糞憂心（庾黔婁）	16) 劉達壳子（劉明達）
17) 朱寿昌	17) 戲彩娛親（老萊子）	17) 元覺警父（元覺）
18) 剡子	18) 拾摺供親（蔡順）	18) 田真諭弟（田真）
19) 蔡順	19) 扇枕温衾（黃香）	19) 魯姑抱長（魯義姑）
20) 庾黔婁	20) 涌泉躍鯉（姜詩）	20) 趙宗替瘦（趙孝宗）
21) 吳猛	21) 聞雷泣墓（王裒）	21) 鮑山負筐（鮑山）
22) 張孝張札	22) 刻木事親（丁蘭）	22) 伯瑜泣杖（伯瑜）
23) 田真	23) 哭竹生笋（孟宗）	23) 琰子入鹿（琰子）
24) 陸績	24) 滌親溺器（黄山谷）	24) 楊香跨虎（楊香）
25) 伯瑜 ³³⁾		

図3 「二十四孝」の三系統

31) 黒田彰『孝子伝の研究』佛教大学鷹陵文化叢書5（思文閣出版、2001年）、101頁。

32) () 内は筆者が補ったものである。

33) 『全相二十四孝詩選』系の中で、他の三資料と異なって、『龍大本甲本、乙本』のみは伯瑜という人物を加入し、25人の孝子になった。

図3に基づき、「補正二十四孝傳衍義譚」にある24人の孝子の記載法について見てみよう。本書の記載法はこれらの三系統のいずれとも異なっている。すなわち、まず六類（①帝王部、②孔門部、③老人部、④文夫部、⑤孩童部、⑥婦女部）に分けたうえで、「帝舜一」、「王裒十一」、「黄廷堅十八」といったように、人名とその順序で標題示されている。具体的には次のとおりである。

①帝王部

帝舜一 漢文二

②孔門部

曾子三 閔子四 子路五

③老人部

老萊子六

④文夫部

董永七	郟子八	江革九	郭巨十
王裒十一	〔寿昌十二〕 ³⁴⁾	黔婁十三	〔蔡順十四〕
丁蘭十五	〔王〕祥十六	孟尊十七	黄廷堅十八

⑤孩童部

陸績十九 呉猛二十 黄香二十一

⑥婦女部

唐夫人二十二 龐氏二十三 〔楊香二十四〕

これは同書において「二十四孝」説話に変更が加えられたため、ベトナム的特色となっている。このように、記載法や分類法は三系統と異なっているが、とり上げられた24人の人物自体は『日記故事』と共通している。なお、龐氏は姜詩の妻であり、内容は三系統の姜詩説話と同じである。「補正二十四孝傳衍義歌」は『日記故事』系の「二十四孝」の内容をふまえて字喃に翻字されているのである。

各頁は本文上部に小欄が設けられ、小欄には標題のほか出典、文字の異同等が記され、下段の本文部分には「双七六八体」の詩体の字喃で24人の孝子の説話の内容が解説されている（図4参照）。

三 「補正二十四孝傳衍義譚」の考察

次に、「補正二十四孝傳衍義譚」の内容を考察したい。上述した通り、版の印刷が不明瞭であり脱落があるが、漢喃研究院には「補正二十四孝傳衍義譚」を一部しか所蔵していないため、

34) []の中の文字は原文では3文字を欠くが、下段に書いてある内容に基づき、題名を推測できるため補った。



図4 「補正二十四孝傳衍義譚」第7葉

他文献との対照ができない。なかには判読できない文字もいくつかがあるため、その文章の意味を理解できない場合もある。

「補正二十四孝傳衍義譚」は全部で308句、2156字からなるが、74字の欠字があるため、判読できるのは2082字になる。その308句のうち、最初の8句が「導入部分」であり、次の9句から280句までが六類（①帝王部、②孔門部、③老人部、④文夫部、⑤孩童部、⑥婦女部）に分けられた24人の孝子の詩であり、最後の281句から308句までの約28句が「まとめ」に相当する。句の多寡は説話によってさまざまであり、一定していない。

本章では紙幅の関係上、「導入部分」（1句から8句まで）、最初の3類の詩、すなわち①帝王部、②孔門部、③老人部（9句から78句まで）、最後の「まとめ」の部分（281句から308句まで）をとり上げ、あわせて語釈と日本語訳をつけておきたい。

1 「補正二十四孝傳衍義譚」（『孝経國語譚』）（VNv60）中の字喃の原文

* 字喃部分については、次の方針による。

- (1) Vietnamese nôm preservation foundation による *Nôm Lookup Tools* (http://nomfoundation.org/vnnp_new/index.php?IDcat=51) に登録された字喃フォントを使用した。
- (2) *Nôm Lookup Tools* にない文字の場合は、トアン・ホア出版社（2007）の『大字典字喃』あるいは原本の字喃を画像として貼り付けた。
- (3) 欠字の場合（1字分）は□で示す。
- (4) 語釈の結果を示す際、わかりやすくするため各句に番号をつけた。

「補正二十四孝傳衍義詞」 和盛郡王仲延親定 親子洪燠恭檢繕

〔原文〕

1. 𪛗初定乾坤高濕。2. 朱性常𪛗泣鄰民。3. 討羅檜杙𪛗仁。4. 闔齡冪涅帶巾椿源。
5. 職人子法匡𪛗雉。6. 道天倫孝悌為先。7. 固仁迓翠聖賢。8. 蔑章譌底千年嗜群。

〔語釈・校訂〕

1. 𪛗 (trái) : 経る。初 (xưa) : 昔。乾坤 (càn khôn) : 『易経』の「乾卦」、「坤卦」の意だが、ここでは「天地」の意で理解すべきである。濕 (thấp) : 低い。
2. 朱 (cho) : ~させる。𪛗 (xuống) : 下る、下りる。泣 (khấp) : 至る所。鄰 (dưới) : 下。
3. 討 (thảo) : 親孝行。羅 (là) : ~である。檜杙 (cội rễ) : 根元、起源。𪛗 (làm) : ~する、為す。
4. 闔 (vạn) : 万。齡 (lành) : 善良。冪涅 (trăm nét) : 百の行。帶巾 (đai khăn) : 大官の礼服に使用する頭巾と帯であり、「事業と名声」の意である。椿源 (gốc nguồn) : 根源、起源。
5. 法匡 (phép khuôn) : 規範、規則。𪛗 (chớ) : ~すべきでない。雉 (trễ) : 怠ける。
7. 固 (có) : ある、いる。仁迓翠 (hai mươi bốn) : 二十四。
8. 蔑 (mệt) : 一。譌 (ca) : 歌う、称賛する。底 (đế) : 残す。嗜 (tiếng) : 名声。群 (còn) : 残る、まだ。

〔日本語訳〕以上の8句をまとめると以下のような内容になる。

昔から天地は高低を定め、民衆には決まった作法、礼儀を流布する。「孝」は「仁」の根源であり、すべての善行、百の行、事業と名声の起源である。職人の子といえども法規、礼法を怠るべきでない。天地、倫理の道は「孝悌」が始めである。24人の聖賢がいて万世に名を留めている。

①帝王部

帝舜一

〔原文〕

9. 棧戸舜羅昆瞽瞍。10. 生母亡繼母克諧。11. 討親蔑順媿仁。12. 𪛗和涅與𪛗移性愚。
13. 𪛗嶽歷勤劬耜耜。14. 腿讓坡埃乃條蹊。15. 物𪛗兼体兜吹。16. 固嶋𪛗鞣固爲執耜。
17. 感高𪛗遣牢軾丕。18. 堯喟名傳𪛗𪛗希。19. 側微忍𪛗𪛗茶。20. 與𪛗拱透拯擗𪛗。

〔語釈・校訂〕

9. 棧 (đời) : 時代。戸 : 「虞」の簡略体。「虞」(Ngu) は中国古代の王朝名。舜 (Thuần) : 古代中国の五帝の一人舜帝。羅 (là) : 第3句参照。昆 (con) : 子供。瞽瞍 (Cổ Tâu) : 人名。

10. 克諧 (khắc hài) : 漢語でよくやわらぐ。よく調和するという意味。
11. 討 (thảo) : 第3句参照。蔑 (mệt) : 第8句参照。媿 (em) : 弟、妹。仝 (hài) : 第7句参照。
12. 違 (trên) : 上。和 (hòa) : 仲よくする。涅 (nét) : 性格、気質。與 (dữ) : 怖い。懽 (duới) : 第2句参照。
13. 媿歷 (non Lịch) : 歴山。勤劬 (cần cù) : 熱心な、勤勉な。耜 (cày) : 耕す。
14. 腿 (thôi) : 習性。坡 (bờ) : あぜ道。埃乃 (ai nấy) : すべての人々。條 (đều) : 皆。跂 (noi) : 従う、真似る。
15. 飪 (thiên) : 神聖な。羨 (duòng) : ~のようである。体 (thấy) : 見る。兜 (đâu) : どこ、~ない。吹 (xui) : そそのかす。
16. 固 (cố) : 第7句参照。鳩 (chim) : 鳥。擣 (làm) : ~する。鞮 (cỏ) : 草。獯 (voi) : 象。執 (giúp) : 手伝う。耜 (cày) : 第13句参照。「固鳩擣鞮固獯執耜」は「象棋鳥耘」による。
17. 高嶼 (cao dầy) : 高くて厚い、ここでは「天」の意で理解すべきである。遣牢 (khiến sao) : ~させる。鍼 (nên) : ~になる。丕 (vây) : そのように。「感高嶼遣牢鍼丕」は孝悌のおかげで天が感動したため、そのようなこと（鳥が草を拾い、象が田を耕すのを手伝ったこと）をさせたのだろう。「感高嶼遣牢鍼丕」は『孝経』感応篇「孝悌之至通於神明、光於四海、無所不通」による。
18. 嗚 (mang) : 聞く（古語）。傳祿 (truyền lộc) : 讓る。鶯 (ngôi) : 王位。肴 (vua) : 王。
19. 忍紹 (nhẫn chịu) : 耐え忍ぶ、我慢する。鞮 (cay chua) : 苦痛、悲惨な。
20. 與 (dữ) : 第12句参照。善 (lành) : 第4句参照。拱 (cung) : も。透 (thấu) : 透徹する。拯 (chăng) : ~ではない（否定詞）。擣 (đua bai) : 競争する。駟 (gi?) は「駟」(gi: 何)の字喃の誤植と思われる。

〔日本語訳〕 以上の12句をまとめると以下のような内容になる。

虞代舜帝は瞽瞍の子である。生母は早くに亡くなったが、継母に対して穏やかに仕えた。舜は親に孝行をしつつ、弟とも仲良くしていた。上は苛烈な性格の継母とも和合し、下は愚かな性格を直してあげた。歴山で舜が一所懸命に田を耕した。誰でもその譲り合いの性格を見習った。たちまち神聖なことが起り、鳥が草を拾い、象が田を耕すのを手伝った。天が感動し、そうさせたのだろう。堯帝は舜の名を聞き、舜は堯帝から王位を譲り受けた。低い身分の時も善悪をこえて苦痛を耐え忍び、損得を何も考慮しなかったからであろう。

漢文二

〔原文〕

21. 吏漢代固位文帝。22. 雖尊嚴敢雉孝恭。23. 朝薄后病叵冬。24. 脰空丙詔輪空許袍。
25. 葉余排獸乂嘔唵。26. 驗別味買敢豨勸。27. 罌口嚙啗議嗜。28. 符舛□□於蓮尃吝。

〔語釈・校訂〕

21. 吏 (lại) : ~もまた。固 (cố) : 第7句参照。位 (vị, vị) : 方。
22. 雉 (trễ) : 遅れる、怠ける。
23. 朝 (chiều) : 言いなりになる、尽す。薄后 (Bạc Hậu) : 漢文帝の母。匹 (ba) : 三。
24. 肱 (cật) : 腰 (古語)。空 (không) : ~ない (否定詞)。丙 (biêng) : 怠ける。褶 (chéo) : 斜め。躰 (minh) : 身体。許 (hở) : 開く、解く。袍 (bào) : 袖広の上衣。「肱空丙褶躰空許袍」は『小学』善行第六「親有疾, 衣不解帶, 湯藥必親嘗」による。
25. 排葉 (bài thuốc) : 薬剤。余 (mấy) : いくつか。孰 (trước) : 前、先に。匱 (vào) : 入れる。呬 (miệng) : 口。唸 (ném) : 嘗める。「葉余排孰匱呬唸」は『礼記』曲礼下「親有疾、飲藥、子先嘗之」による。
26. 驗 (nghiệm) : 確かめる。別 (biết) : 知る。買 (mới) : 初めて~する、すぐに、そこで。黜 (dâng) : 持ち上げる。勸 (khuyên) : 諭す。
27. 罟 (bón) : 四。嚙啗 (nức tiếng) : 著名になる。議嗜 (ngợi khen) : 誉める。
28. 符 (giữ) : 守る。輒 (trong) : 中、裏。於 (ở) : ~に。蓮 (trên) : 第12句参照。尪 (chín) : 九。吝 (lân) : 回

〔日本語訳〕以上の8句をまとめると以下のような内容になる。

また、漢代に文帝がいた。高貴な身分であるが「孝」を怠慢にしなかった。3年もの間病気の薄后に仕え、心が定まり、移り気がなく、帯を解くことをしなかった。薬をまず自分の口で嘗めて、その味を確かめてから母親に飲ませた。その名声が四方に広がった(第28句には欠字があるため判読できない)。

②孔門部

曾子三

〔原文〕

29. 意^レ人君悉群志道。30. 况之馱受教孔門。31. □□□掄^レ昆。32. 勤勞奉養晨昏冬夏。
33. 常^レ互^レ飭^レ糞泥掇檜。34. 客於兜細^レ粵□。35. □□□別燼^レ焮。36. 𧰨^レ昆^レ蠶^レ覓^レ空方^レ排。
37. 媿^レ輒^レ頤^レ晒^レ輒^レ頤。38. 昆^レ蓮^レ嶽^レ揜^レ膝^レ郡^レ疴。39. □□掇^レ糞^レ術^レ託。40. 跪呈□□孰^レ新^レ代^レ詳。

〔語釈・校訂〕

29. 意^レ (áy) : それ、あれ。悉 (lòng) : 心。群 (còn) : 第8句参照。
30. 况之 (huóng chi) : まして~はなおさらである。馱 (người) : 人、人間。
31. 掄 (trọn, tròn) : 完全な、十分な。𧰨 (làm) : 第3句参照。昆 (con) : 第9句参照。
32. 勤勞 (cần cù) : 第13句参照。晨昏 (thần hôn) : 朝晩。「晨昏」は『礼経』曲礼上「凡為人

子之礼、冬温而夏清、昏定而晨省」による。

33. 常 (thường) : いつも、度々。勸飭 (gắng sức) : 努力する。糞泥 (nặng nề) : 重い、重そうに。掬 (gánh) : 担ぐ。檜 (củi) : 薪。
34. 於 (ở) : 第28句参照。兜 (đâu) : 第15句参照。細 (túi) : 来る。悔 (hối) : 問う、尋ねる。粵 (việc) : こと。
35. 別 (biết) : 第26句参照。燿煉 (rõ ràng) : 明瞭に。
36. 望 (trông) : 期待する、待望する。昆 (con) : 第9句参照。蠢 (chưa) : まだ~でない。覓 (thấy) : 見る。空方 (không phương) : 方法がない。訥 (nói) : 言う。排 (bày) : 表明する。
37. 媯 (mẹ) : 母親。舛 (trong) : 第28句参照。闕 (cửa) : 門。眼 (cán) : 噛む。手 (tay) : 手、ここでは「指」の意で理解すべきである。望 (trông) : 期待する、待望する。
38. 昆 (con) : 第9句参照。重 (trên) : 第12句参照。嫩 (non) : 第13句参照。抱 (ôm) : 抱く。膝 (bụng) : お腹。郡疔 (quần đau) : よじれるように痛む。
39. 掬 (gánh) : 第33句参照。糞 (nặng) : 重い。術 (vè) : 帰る。跬 (mau) : 速い。
40. 呈 (trình) : 報告する、説明する。黷 (trước sau) : 前後、いつでも、全てのこと。咄 (dạy) : 教える、言いつける。

〔日本語訳〕 以上の12句をまとめると以下のような内容になる。

普通の人でも「孝道」の心があるが、孔子の教えを受けた人はなおさらである。曾子は「孝」の役割をやり遂げた。一年中朝夕母に孝養を尽くし、いつも重い薪の束を担ぎ努力した。客が訪問して尋ねると、□□□すぐにはっきり分かった。曾子がなかなか帰って来ないので、母は門の裏で指を噛んで待ち望んだ。山で曾子は腹がよじれるように痛んだため、早足に薪を運んで帰宅した。跪きつつ母に状況を詳しく教えていただいた。

関子四

〔原文〕

41. 嚙仁準堦塘除恪。42. 嗜蔑悉窳擊 如印。43. 討丕台関子騫。44. 馱共父母媯燕蔑訓。
45. 討媯疔順仁媯幽。46. 况吒生敢雉轟殺。47. 嚙台疔冷朱棧。48. 昆輪葦緘昆馱花萃。
49. 眼直朝吒燿別釋。50. 傷孝兒悶襖妬妻。51. 撞連 且黷滅跪。52. 媯群蔑冷媯離匹单。
53. 修眩干娘卞悔 改。54. 推蔑悉重待掣包。55. 孝仁嗜溪朋拋。56. 舛科德行添高名嘔。

〔語釈・校訂〕

41. 嚙 (ngậm) : 考慮する。仁 (hài) : 第7句参照。準 (chón) : 場所。堦塘 (dặm đường) : 長い道。除 (xa) : 遠い。恪 (khác) : 違う、異なる。
42. 嗜 (khen) : 誉める。蔑 (môt) : 第8句参照。悉 (lòng) : 第29句参照。窳 (khéo) : 巧みな、

- 上手な。鑿 (tạc) : 刻む、彫刻する。
43. 討 (thảo) : 第3句参照。丕 (vây) : 第17句参照。台 (thay) : 何と (形容詞または文末につける感嘆詞)。
44. 馱 (ngươi) : 第30句参照。媿 (em) : 第11句参照。燕 (yên) : 安らかな、静かな。蔑 (một) : 第8句参照。訓 (lời) : 言葉。
45. 討 (thảo) : 第3句参照。媿疢 (mẹ ghê) : 継母。仝 (hai) : 第7句参照。媿 (em) : 第11句参照。鹵 (bé) : 小さい。
46. 况 (huống) : まして、その上。吒 (cha) : 父。雉 (trễ) : 第22句参照。晝晷 (hôm mai) : 朝晩。
47. 嚙 (ghê) : 恐ろしい。台 (thay) : 第43句参照。疢冷 (ghê lạnh) : 冷淡な。朱 (cho) : 第2句参照。莠 (đời) : 第9句参照。
48. 昆 (con) : 第9句参照。踰 (minh) : 自分。蕪紉 (bông giáy) : 綿。馱 (ngươi) : 第30句参照。花葦 (hoa lau) : 芦。
49. 睨 (buôi) : 時。直^レ朝 (chực châu) : そばに控える。吒 (cha) : 第46句参照。燻 (soi) : 深く観察する。別 (biết) : 第26句参照。穉 (trẻ) : 子供、幼児。
50. 傷 (thương) : 愛する。悶 (muốn) : ～したい、～ほしい。襍 (rè) : 分ける、別れる。妬 (đố) : その。
51. 撞 (chàng) : 彼。連 (liền) : 直ちに。旦 (đến) : 来る、～まで。黜 (trước) : 第25句参照。噓 (thưa) : 礼儀正しく話す。
52. 媿 (mẹ) : 第37句参照。群 (còn) : 第8句参照。蔑 (một) : 第8句参照。冷 (lạnh) : 寒い。離 (lia) : 去る。匹 (ba) : 第23句参照。单 (đơn) : 寒い思いをする。「媿群蔑冷媿離匹单」は『蒙求集註』巻下の「母在一子寒、母去三子單」による。
53. 侈 (xây) : 突然。聒 (nghe) : 聞く。干 (can) : 諫める。娘 (nàng) : 彼女。卞 (bèn) : ここで、それで。
54. 推 (suy) : 推察する。蔑 (một) : 第8句参照。悉 (lòng) : 第29句参照。重待 (trọng đãi) : 厚くもてなす。掣包 (xiết bao) : どれほどか。
55. 哨 (tiếng) : 名声。浚 (nôi) : 浮かぶ、有名になる。朋 (bằng) : ～のように、如く。抛 (phao) : 浮き。
56. 輶 (trong) : 第28句参照。添 (thêm) : 加える、より一層。嘩 (đồn) : (名声) を流す、広がる。

〔日本語訳〕以上の16句をまとめると以下のような内容になる。

二つの異なる遠い道のりがあるがひたすら刻みつけるように強固な孝心を賞める。親孝行の関子騫よ、彼は父母、弟と共に穏やかな生活を過ごした。継母にも孝を尽くし、二人の弟とも

仲良くした。まして父親には心から仕えることはなおさらであり、敢えて怠ることはなかった。しかし継母の冷淡は恐ろしく、自分の子には綿のコートを着せたが、閔子には芦のコートを着せた。閔子が父のそばに控えた日に、父は子を観察し、状況を知るに至った。父は子のことをいたましく思い、妻と別れたいと思った。閔子は父の前に跪いて申し上げた。「母がいると一人が寒がるだけですが、母が去ると、三人とも寒がることになります」と。継母は閔子騫が父を諫める言葉を聞いて、心を正し、閔子をひたすら厚くもてなした。閔子の「孝」、「仁」の名声は湧き上がり、道行において高名がさらに広がった。

子路五

〔原文〕

57. 周子路昉群茹菘。58. 飴羹藜藿樂免戈。59. 為茲歲索親糶。60. 勗功隊糶塘賒拯奈。
61. 斲蔑屨嚴慈詠隔。62. 細他鄉𠄎客楚公。63. 返欺仕宦鄧用。64. 車𦉳𦉳穰穰開鐘落瀾。
65. 官職𦉳𦉳𦉳當稱。66. 𦉳𦉳重𦉳𦉳𦉳高。67. 安慄添𦉳𦉳𦉳勞。68. 閔初奉養𦉳𦉳𦉳鄧兜。

〔語釈・校訂〕

57. 昉 (lúc) : 時。群 (còn) : 第8句参照。茹 (nhà) : 家。菘 (bạc) : 白い、色あせる、ここでは「ひどく貧しい」の意。
58. 飴 (bũa) : 食事。羹藜 (canh lê) : アカザのスープ、粗末な食べ物たとえ。藿 (mãn) : 塩辛い。樂 (lạt) : 薄い。免 (miễn) : ~でさえすれば。戈 (qua) : 過す、通過する、ここでは「日をつぶす」の意。
59. 茲 (nuôi) : 養育する、養う。歲索 (tuổi tác) : 年齢。糶 (già) : 年老いた。
60. 勗功 (gắng công) : 第33句参照。隊 (đội) : 担ぐ。糶 (gạo) : 米。塘 (đường) : 第41句参照。賒 (xa) : 第41句参照。拯奈 (chẳng nài) : 憂慮しない、厭わない。「勗功隊糶塘賒拯奈」は「為親負米於百里之外」による。
61. 斲 (sau) : 第40句参照。蔑屨 (mệt mai) : やがて、~した時。嚴慈 (ng nghiêm từ) : 父母。詠隔 (vĩnh cách) : 永遠の別れ、亡くなる。
62. 細 (tói) : 第34句参照。𠄎 (lâm) : 第3句参照。公 (công) : 官吏、三公。
63. 返 (gặp) : 出会う、得る。欺 (khi) : 時。鄧用 (đặng dùng) : 徴用する。
64. 𦉳 (trăm) : 百。𦉳 (cỗ) : 色々飾りつけた車。「車𦉳𦉳」は「千駟」による。穰 (lúa) : 稲。開 (muôn) : 萬。鐘 (chung) : 大甕。「穰開鐘」は「祿萬鐘」による。落瀾 (đầy tràn) : 溢れる。「車𦉳𦉳穰開鐘落瀾」は偉い官職を持っている大臣である。
65. 𦉳 (lón) : 大きい、重要な。𦉳𦉳 (giàu sang) : 富貴の。當稱 (đáng mặt) : 文字通り。
66. 𦉳 (ngồi) : 座る。𦉳重 (đệm chông) : 二枚の敷布団。「𦉳𦉳重」は「坐重茵」による。𦉳 (ăn) : 食べる。𦉳 (chát) : 積み重ねる。𦉳 (vạc) : 鼎。「𦉳𦉳𦉳高」は「鼎食」による。「𦉳

「稔重安攢饒高」は富貴の生活がある。

67. 安慄 (an vui) : 安楽な。添 (thêm) : 第56句参照。愷 (nhớ) : 覚える、思いつく。劬勞 (cù lao) : 子育ての親の苦勞。「劬勞」は『詩経』小雅・蓼莪篇「哀哀父母、生我劬勞」による。
68. 閔 (muốn) : 第50句参照。初 (xưa) : 第1句参照。奉養 (phụng dưỡng) : 教養する。眇 (nay) : 今、現在。芾鄧兜 (nào đặng đầu) : ~ことが出来ない。

〔日本語訳〕以上の12句をまとめると以下のような内容になる。

周の子路の家がまだ貧しかった頃、塩辛くて薄い藜のスープの食事で日を継がなければならなかった。子路は老いた親を孝養するため、米を担いで数里の道も厭わなかった。やがて、親が亡くなり、子路は他郷の楚公の客となり、官職に登用された。車は豪華に飾られた100台や、一万の大甕の稲で溢れた。官職が高くて、文字通りの富貴であった。二枚を重ねる坐布団に座り、豪華で美味しい料理を食べている時、昔の親の劬勞を思いつき、昔のように親に孝養したいが親はなくなって孝養のしようがないと嘆いた。

③老人部

老萊六

〔原文〕

69. 且納髴余馭賢午。70. 歲索高孝慕少埃。71. 莠周買計老萊。72. 雪印鬢泊糶燭悉丹。
73. 歲黜逆襖斑衽色。74. 黜楸枚假垣穉遯。75. 𠂇從擗浩補賤。76. 親貼覓發嘸其悉慄。
77. 大人臑如回群𦍋。78. 輪蔑念昆蠶空差。

〔語釈・校訂〕

69. 且 (đến) : 第51句参照。納髴 (nói sau) : 後に続く。余 (mấy) : 第25句参照。馭 (người) : 第30句参照。賢午 (hiền ngõ) : 優秀、才能豊か。
70. 歲索 (tuổi tác) : 第59句参照。少 (ít) : 少ない。埃 (ai) : 誰。
71. 莠 (dòi) : 第9句参照。周 (Chu) : 中国の古代王朝。買 (mới) : 第26句参照。計 (kể) : 物語る、言及する。
72. 印 (in) : 生写しである。鬢泊 (tóc bạc) : 白髪。糶 (son) : 忠誠心のある。燭 (ngòi) : 輝く。悉丹 (lòng đan) : 赤心、誠心。
73. 黜逆 (bảy mươi) : 七十。襖斑 (áo ban) : 斑衣。衽色 (năm sắc) : 五色。「襖斑衽色」は『礼記』曲礼上「為人子也、父母存、冠衣不純素。孤子當室、冠衣不純采」による。
74. 黜 (ra) : 出る。楸枚 (múa may) : 躍り狂う。垣 (bậc) : 階級、程度。穉 (trẻ) : 第49句参照。遯 (chơi) : 遊ぶ。
75. 𠂇 (lắm) : 第3句参照。從 (tuồng) : 容姿、様子。擗 (bung) : 両手で持つ。浩 (nước) :

水。補賤 (bổ đãi) : どっと倒れて完全にのびる。

76. 貼覽 (xem thấy) : 見る。發嘔噦 (phát ọc cười) : 吹き出して笑う、失笑する。悉 (lòng) : 第29句参照。慍 (vui) : 喜ぶ、嬉しい、楽しい。

77. 臍 (đạ) : 腹、心。回 (hồi) : 時、頃。群 (còn) : 第8句参照。鞞 (nhỏ) : 小さい。

78. 輪 (tròn) : 第31句参照。蔑 (mệt) : 第8句参照。念 (niềm) : 感情を表す名詞の前につける語。昆蠶 (con đò) : 赤子。空差 (không sai) : 間違いない。

〔日本語訳〕以上の10句をまとめると以下のような内容になる。

何人かの優秀な人が後に続いた。親孝行な高齢者はあまりいないが、周時代の老萊子のことに言及しなければならない。彼は雪のように白髪になったが、丹心を輝かした。70歳になって、五色の斑衣を着、幼な子のようなふりをし、躍ったり、水を手に持ち、どっと倒れるふりをした。親はその様子を見て、吹き出して笑った。年老いても心が若い頃と変わらず、ひたすら誤りなく赤子の念を全うした。

281. 包饒馭討賢戮氏。282. 掩豆蘇買覽豆蘇。283. 計口羆帝王初。284. 檜垤仁孝相承代民。
285. 油悶鄧忠臣多宝。286. 𠄎自尼鞞討麻鞞。287. 悶仁仁且貝些。288. 易斯於妬坤賒求夷。
289. 層察推馭習在丕。290. 敢勸盼符秘性常。291. 戮願德猷君王。292. 用悉孝治拎綱御棧。
293. 腿跽順埃埃北酌。294. 茄興仁𠄎浩興仁。295. 孝經學別人倫。296. 德自妬檜代吝生鞞。
297. 多馭些沛伽道聖。298. 像太平羆盛丕南。299. 福癡返會可多。300. 册硯在遂襖紺露垣。
301. 雖篤筋符虞臣子。302. 兜質輪敢忒孝忠。303. 隊番羆卷燿悉。304. 愴共聖戮憐共賢習。
305. 盼訓羆本蠶的當。306. 孺册踧踧樣葫蘆。307. 慷慷仗忒聿修。308. 戮憐念祖羆求貽孫。

補正二十四孝傳衍義譚 完 和盛郡王府子女并孫曾孫同學本

〔語釈・校訂〕

281. 包饒 (bao nhiêu) : いかに多くの、どれほどの。馭 (người) : 第30句参照。討 (thảo) : 第3句参照。賢 (hiền) : 優しい、賢明な。戮氏 (trước ấy) : 以前、従来、かつて。

282. 掩 (trồng) : 栽培する。蘇 (dua) : 瓜。買 (mới) : 第26句参照。覽 (thấy) : 第76句参照。

283. 計 (kê) : 人。羆 (ngôi) : 第18句参照。初 (xưa) : 第1句参照。

284. 檜垤 (cội nền) : 起源。相承 (tương thừa) : ここでは継承する意。代 (đay) : 第40句参照。

285. 油 (dầu) : たとえ〜でも。悶 (muốn) : 第50句参照。鄧 (đặng) : 得る、〜することができる。多 (làm) : 第3句参照。

286. 𠄎 (át) : 確かに。自尼 (từ nay) : 今から。鞞 (cửa) : 門。討 (thảo) : 第3句参照。麻 (mà) : しかし、そして。鞞 (ra) : 第74句参照。「油悶鄧忠臣多宝。𠄎自尼鞞討麻鞞」は『後漢書』韋彪伝「求忠臣必於孝子之門」による。

287. 悶 (muốn) : 第50句参照。且 (đến) : 第51句参照。貝 (vói) : ~と、~と一緒に。些 (ta) : 私、私たち、自分たちの。
288. 易 (dễ) : 容易。斯 (gần) : 近い。於 (ở) : 第28句参照。妬 (đố) : 第50句参照。坤 (khôn) : ~ない。除 (xa) : 第41句参照。𢶏 (gi) : 第20句参照。
289. 屢 (lũm) : ~したことがある、~毎に、曾って。察推 (xét suy) : 推察する。馱 (người) : 第30句参照。𢶏 (xưa) : 昔、かつて。𢶏 (đã vậy) : それにも拘らず、そうであれば。
290. 嘯 (khuyên) : 第26句参照。𢶏 (nay) : 第68句参照。符襪 (giữ lầy) : しっかり持つ、堅持する。性 (tính) : 性格。常 (thường) : 五常。
291. 𢶏 (trước) : 第25句参照。𢶏 (cả) : 大きい、権力のある。
292. 用 (dùng) : 使用する。悉 (lòng) : 第29句参照。拏綱 (cầm cương) : 綱紀を持つ。御蓑 (ngự dơi) : 天下を統治する。
293. 腿 (thôi) : 第14句参照。討順 (thảo thuận) : 父母に孝養を尽し兄弟仲がよい。埃埃 (ai ai) : 誰も。北酌 (bắt chước) : 真似る。
294. 茄 (nhà) : 第57句参照。𢶏 (át) : 第286句参照。𢶏 (nước) : 国
295. 學 (học) : 勉強する。別 (biết) : 第26句参照。
296. 自 (từ) : から。妬 (đố) : 第50句参照。檜 (cội) : 第284句参照。𢶏 (đay) : 第40句参照。吝 (lân) : 次第に。生𢶏 (sinh ra) : 発生する、誕生する。
297. 𢶏 (làm) : 第3句参照。馱 (người) : 第30句参照。些 (ta) : 第287句参照。沛 (phái) : ~しなければならぬ。伽 (nhờ) : 頼る。道聖 (đạo thánh) : 聖賢の道。
298. 𢶏 (mở) : 開く。𢶏 (trời) : 空、天。南 (Nam) : ベトナム。
299. 癡 (ngờ) : 疑う、思いがけず。返 (gặp) : 第63句参照。會 (hội) : 機会。可 (khá) : かなり、よい。𢶏 (làm) : 第3句参照。
300. 册硯 (sách nghiên) : 学問。𢶏 (đã) : 既に。遂 (toại) : 満足する。襖 (áo) : 衣服。𢶏 (com) : ご飯。𢶏 (com áo) : 生活、暮らし。ここでは「親の恩」の意味で理解すべきである。𢶏 (chưa) : まだ。𢶏 (đền) : 報う。
301. 雖 (tuy) : ~にもかかわらず、~とは言え。篤飭 (đốc sức) : 尽力する。符廬 (giữ gìn) : 保持する、維持する。臣子 (thần tử) : 臣下と子弟。
302. 兜 (đâu) : ~でない。質^く (chắc) : 確かに、確信する。𢶏 (minh) : 自分自身。𢶏 (ví) : 比較する、かりに~とすれば。
303. 隊 (đội) : 多く、たくさん (古語)。番 (phen) : 回。𢶏 (mở) : 第298句参照。𢶏 (soi) : 第49句参照。悉 (lòng) : 第29句参照。
304. 恍 (hở) : 恥ずかしい。𢶏 (trước) : 第25句参照。𢶏 (thẹn) : 恥ずかしい。𢶏 (xưa) : 第289句参照。
305. 𢶏 (nay) : 第68句参照。𢶏 (lời) : 第44句参照。𢶏 (vụng) : 下手な。本 (vốn) : 元来、も

- ともと。蠹（chua）：第300句参照。的當（đích đáng）：的を得た。
306. 擯読（dựa theo）：～に基づく。冊（sách）：本。牘（vè）：描く。様（dáng）：様子。葫蘆（hồ lô）：瓢箪。
307. 慷慷（khăng khăng）：決して気の変わらない、頑固な。忖（nhớ）：覚える、思いつく。杼（chữ）：文字。聿修（duật tu）：祖先の徳を述べてこれをおさめる。『詩経』大雅・文王篇「聿修厥徳」による。
308. 黜（trước）：第25句参照。懼（lo）：気にする、心配する。祖（tổ）：祖先。鬻（sau）：第40句参照。貽（di）：伝える。

〔日本語訳〕以上の28句をまとめると以下のような内容になる。

どれほど多くの親孝行の人が昔からいたことだろう。豆、瓜を栽培すれば、必ず豆、瓜を収穫できるものだ。昔の帝王の王位に上る者もまず「仁」「孝」によって、民衆を教化した。忠臣を得て宝としようと思えば、必ず「孝道」の門から出る。「仁」が欲しければ、「仁」が私たちがのところにやって来て、遠い所に求める必要はない。かつての聖賢を推察すればすぐにわかる。今も五常をしっかりと持つように敢えて勧告する。まずは仁徳の大きい君王に「孝心」の綱紀を用いて、天下を統治することを願う。誰でも「孝順」のころを真似て、それぞれの家に「仁」が興れば、確かに国にも「仁」が盛んになる。「孝経」を学び、人倫を知れば、「徳」がその起源から次第に誕生する。人は聖賢の「道」に頼らなければならない。そうすることにより、太平の背景が開き越南の天下が盛んになる。「補正二十四孝」を編纂する機会に思いがけなく出会うことができたため、幸福だった。勉強、事業はやり遂げたが、親の恩に報うことがまだできていない。臣下と子弟の徳を維持することに尽力したが、自分が孝忠の人間であるとは敢えて言わない。何回も本を開き、心を深く観察し、昔の聖賢に対して恥ずかしく思った。下手な言葉はまだ的を得ていないが、書物に基づいて瓢箪を描き、「聿修」（祖先の徳などを述べてこれをおさめる）という言葉を決断として維持した。まずは祖先のことを念じ、後に子孫に伝えることにする。

補正二十四孝傳衍義譚 完、和盛郡王府の子女ならびに孫・曾孫の同学本。

おわりに

本稿ではベトナムに伝わる「補正二十四孝傳衍義譚」の特徴とその内容一端、および綿窩皇子の「孝道」をしようとする意図を明らかにした。文献学上から見ると、字喃で解説された文献ではあるものの、漢字を使用する割合はかなり多い。漢字は人命、地名、方向、季節や、「道」、「仁」、「養親」、「事親」、「奉親」、「徳」、「礼」、「天倫」、「孝」、「悌」、「忠」、「孔門」などの儒教用語、「晨昏」、「定省」などの儀礼用語、『詩経』にある「劬勞」、「生我」、「蓼莪」、「聿修」な

どの儒教の経典に見える語が多い。これは当時のベトナム皇族階層において、これらの用語が熟知されていたこと、さらには儒教思想がベトナムの文化、社会に浸透していたことを物語るものといえよう。

「補正二十四孝傳衍義譚」は中国の散文作品をベトナムの代表的な「双七六八体」および「六八体」という詩体を用いて字喃で翻案しているため、漢字原文の理論性、哲理性をある程度失うことを避けることがない。しかし、一方、字喃に翻案することは民族の言語、文字を使用することを通して、文献に対して新しい雰囲気、色彩をもたらし、民衆に儒教の「孝道」思想の伝達の効果や速度を高めることも否定できない。それは受けとめる人々の思想、地域性を明瞭に反映し、ベトナムの魂を色濃く染めることである。換言すれば、それはベトナムにおける中国文化の受容と変容を物語るものであるに違いない。

本稿を通して、字喃の文字学、文献学の資料の研究に一部貢献できることを期待しつつ、「二十四孝」説話がベトナムの皇族階層に行きわたっていたこと、そして、「昔の帝王の王位に上る者もまず、「仁」「孝」によって、民衆を教化した。忠臣を得て宝としようと思えば、必ず「孝道」の門から出る」(283句～286句)とあるように、民衆の教化において「仁」「孝」が重要な役割を担っていたことを再確認できた。綿窩皇子の履歴や作品、「孝道」の精神を熱心に提唱したことなどはこれほどほとんど注意されなかったが、本稿の考察によってそうしたことをかなり明らかにできたように思われる。

なお、本書は皇室の子弟の「孝」教育に重要な役割を果たしただけでなく、文献学・言語学といった19世紀の字喃研究においても有益なテキストとなるように思われる。